

文教厚生委員会 行政視察報告書

令和4年11月14日

狭山市議会議長

太 田 博 希 様

文教厚生委員会

委員長 三 浦 和 也

当委員会は、下記のとおり、埼玉県吉川市及び埼玉県戸田市を視察してまいりましたので、その概要について報告いたします。

記

日 程 令和4年10月5日（水）、6日（木）

- 視察事項 1 埼玉県吉川市
学校施設と他の機能との複合化について
2 埼玉県戸田市
教育改革の取組について

参 加 者 三 浦 和 也 綿 貫 伸 子 大 沢 えみ子
西 塚 和 音 金 子 広 和 内 藤 光 雄
新 良 守 克

同 行 者 宇佐見 昌 義 学校教育部次長

随 行 者 吉 澤 俊 充 担当書記

【埼玉県 吉川市】

〔市制施行〕 1996 年(平成 8 年)4 月 1 日

〔人 口〕 73,054 人(令和 4 年 10 月 1 日現在)

〔面 積〕 31.66 平方キロメートル

〔概 要〕

昭和 28 年の市町村合併促進法の施行により、昭和 30 年 3 月 1 日、旭村、三輪野江村、吉川町が合併し、「吉川町」となった。平成 3 年に人口が 5 万人を超え、平成 8 年 4 月 1 日に市制を施行し吉川市が誕生した。埼玉県の東南部に位置し、東に江戸川を挟み千葉県野田市、流山市と接し、西に中川を挟み越谷市、草加市と境を接している。古くから川魚料理の伝統があり、特になまず料理は家庭の味、郷土料理として親しまれてきた。JR 武蔵野線吉川南口ロータリーには「金色のなまずモニュメント」が設置されている。

【視察項目】学校施設と他の公共施設機能との複合化について

【視察内容】

●吉川市立美南小学校の施設概要

・学校規模： 普通学級 40、特別支援学級5/児童数 1363 人（令和 4 年 5 月 1 日現在）

・複合施設(床面積):小学校 … 8,134 m²
公民館 … 299 m²
高齢者ふれあい広場… 182 m²
子育て支援センター … 105 m²
学童保育室 … 358 m²

・構 造： 鉄筋コンクリート一部鉄骨造(3 階建て)

・整備経過： 平成 23 年 9 月建築工事着手 平成 25 年 4 月 1 日 開校

・事 業 費： 3,829,926 千円

内訳（用地取得費）1,523,801 千円 （建築工事費）2,109,985 千円

（外構工事費） 145,215 千円 （設計管理費） 50,925 千円

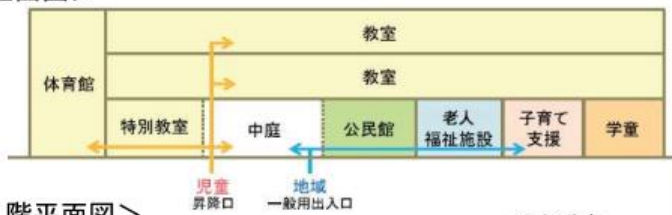
・財源内訳

国費(国庫負担金、交付金)893,903 千円(23.3%) 県費(補助金)43,008 千円(1.1%)

市債 2,244,900 千円(58.6%) 一般財源 648,115 千円(17%)



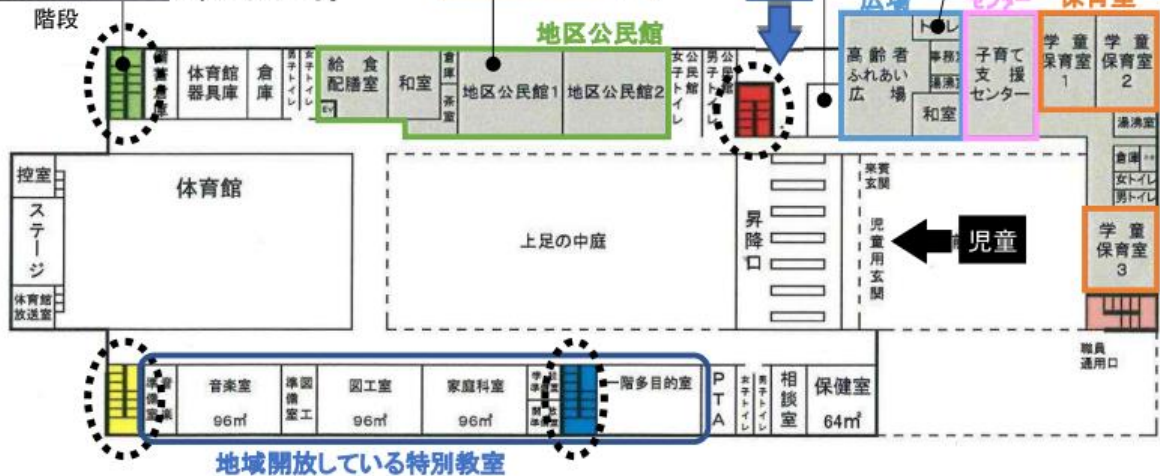
<立面図>



<1階平面図>



4箇所の階段で、3階まで行くことができる。学校運営時間以外は、階段の防火扉を閉めて外部から侵入できないようにしている。



(出典:文部科学省 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書)

●学校施設とその他公共施設複合化の経緯について

美南小学校が立地する美南地区は、JR 武蔵野線吉川美南駅(H24 開業)に隣接し、都市再生機構が、土地区画整理事業により計画的な基盤整備を行った新市街地である。既存の公共施設がなかったため複合施設として整備した。地域に充足していない公共施設を中心に、事前に庁内に照会し調整し希望があった施設を整備した。

●管理運営体制

- ・小学校と公民館は、教育委員会が管理運営。
- ・老人福祉施設(デイサービス)は市長部局の委託により、社会福祉協議会が管理運営。
- ・子育て支援センターは市長部局からの委託によりNPO法人「吉川市子育てネットワーク」が管理運営。
- ・学童保育室は市長部局が管理運営。



●複合化によるメリットや成果について

＜教育上の効果＞

・就学前の親と子どもが、一緒に子育て支援センターを利用することにより、将来子どもが通う小学校に馴染みができて、親も子どもも安心して小学校に就学できる。

＜地域住民への効果＞

・様々な世代が利用する施設が複合化されているので、地域コミュニティの拠点となっており、今後も活性化が期待できる。

＜財政上の効果＞

・施設建設にあたり、各施設を単体で整備するよりも共有部分の建設や用地の確保等にメリットがあった。



●施設間での交流について

・全館イベントとしては避難訓練を実施。また、「いのちの教育」として子育て支援センターに通う母親・未就学児とのふれあいイベントや高齢者ふれあい広場に通う高齢者との交流がある。また、子育て支援センターと高齢者ふれあい広場の施設が隣り合っており、世代間交流の拠点にもなっている。



●建設後に生じた問題や課題について

・複合施設に関する問い合わせが学校に入ることがあり、対応が必要な場合がある。各施設の管理者や利用者と連絡調整する仕事が日常的に発生し、学校側の負担は増えた。複合化した学校の運営にあたっては、校長、教頭、教務主任などの教員の理解と協力が不可欠である。

・日常の維持管理を一括で行う場合、複合化した学校は関係個所との調整に時間を要する。

・美南地区は児童が増加しており、教室不足が生じている。

・児童数の増加により、教員数も増えたため駐車スペースが不足している。

【質疑応答】

Q. 近年、想定を上回る 200 人以上の児童が入学してきているとのことだが、校舎を4階建てや5階建てにする計画はなかったのか。

A. この地域は、住居専用地域なので、3階以上の建物は立てられない。武蔵野操車場跡地に4棟のマンションが建ち想定以上の児童数になったが、令和5年以降は減少することを見込んでいる。



Q. 公共施設との複合化により、住民が学校に出入りすることで、学校の安全対策を強化する必要があると考えるが対策は。

A. 学校と複合化した施設の入り口を分け、公民館など複合化した施設及び家庭科室等一般公開と併用する施設を1階に設け、2階より上に学校の施設を配置している。4箇所の階段で、3階まで行くことができるが、学校運営時間以外は階段の防火扉を閉め外部から侵入できないようにしている。児童の出入り口や駐車場等4か所に防犯カメラを設置しセキュリティを強化している。



【視察を終えて委員の意見】

- ・建設されて 10 年経過した公共施設と複合化された学校で、防災対策や環境の面でも配慮された先進的な施設であった。児童の動線を考えた作りになっているが、高齢者と接点があり交流があるのも良いと思った。



- ・学校を他の施設と複合化した場合、他の施設の目的の補助金も活用できることが分かった。

- ・現在、狭山市では、学校を新築して、他の施設と複合化する計画はないが、そのような考えも視野に入れる必要があると思った。

- ・運営する校長先生をはじめ教職員の努力によって、学校が地域社会に開かれているからこそ、複合化された学校が成り立つことを、説明を聞いて感じた。



【埼玉県 戸田市】

[市制施行] 1966 年(昭和 41 年)10 月 1 日

[人 口] 141,725 人(令和 4 年 10 月 1 日現在)

[面 積] 18.19 平方キロメートル

[概 要]

県の南東部にあり、荒川を挟んで東京都に隣接している。鉄道で新宿まで約 20 分の距離。首都高速道や東京外環道が通る交通の要衝で、倉庫や配送センターが集積している。J R 埼京線開通を機に宅地化が進み、子育て世帯を中心に人口が増加している。戸田ボートレース場がある。

【視察項目】教育改革の取組について

【視察内容】

1. 教育改革のコンセプトについて

平成 27 年 4 月 1 日、戸ヶ崎勤氏が教育長に就任。元教員である戸ヶ崎氏の情熱的なリーダーシップが原動力となり、教育改革が進められている。

教育改革のコンセプトは、

① A I での代替は難しい力などの育成

A I では代替できない能力の育成と、A I を活用できる能力を育成。

② 産官学と連携した知のリソースの活用

ファーストペンギンを目指すことで、安価で効率的、最先端の質の高い教育が提供される。

③ 「経験と勘と気合い(3K)」から「客観的な根拠」への船出

教育のエビデンスの重要性を認識。

④ 授業や生徒指導等を科学する

教育の現場は科学的であるべき。優れた教師の経験や勘、匠の指導技術を言語化・可視化・定量化するなどして、若手に効率的・効果的に伝承していくべきで、そのために教育データを積極的に利活用していくべき。

2. 戸田市の教育改革の特色とは

戸田市 S E E P プロジェクト ～産官学と連携した教育改革の重点～

- ・Subject (教科教育) …子供たちにこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けさせるために、教科の本質を捉えた授業改善を目指す。
- ・EdTech (Education × Technology) …「指導と管理」の P C から「学びと愛用」の P

CとしたICTのマストアイテム化をはじめ、教育とテクノロジーの融合による新たな学びを推進する。

- ・EBPM (Evidence-Based Policy Making) …教育政策シンクタンクを中心に教育の定量的データ及び定性的データの分析を行い、「経験と勘と気合」から脱却したエビデンスに基づく政策立案を行う。
- ・PBL (Project-Based Learning) …社会に開かれた「誰かの何かの課題」を解決する活動を通して、子供たちの未来を切り開く探究者としての資質・能力の育成を目指す。



3. 教育委員会会議の運営上の工夫

教育委員会活性化の10の心構え

- ・議事や報告の追認に終始しない。
- ・「教育委員は教育委員会事務局の上司である」という意識を事務局が持つ。
- ・事務局が知っていて、教育委員が知らないことがないように、壁をなくす努力をする。
- ・事務局で結論が出ていないことでも事前に教育委員に報告し、共に知恵を出し合う。
- ・教育委員が主体性を発揮できるよう、発言しやすい環境づくりをする。
- ・教育委員会会議では、必ず教育委員提案をいただく。
- ・事務局は、できるだけわかりやすく、丁寧な説明を心がける。

- ・国や県の通知や最新の教育情報を随時教育委員に提供する。
- ・教育委員向けの研修を実施する。
- ・会議資料は5日前までに委員の手元に届ける。

4. 一人一台を生かした学びの構想（2016年～）

何のために使うかで価値が変わる（学習観・授業観の重要性） 大切なのは、学びの質の向上。Pedagogy First, Community Second, Technology Third は学習指導の肝。

I C Tの普段使いは子供たちの方が上。分からなかったら子どもに聞く。

若手ではなく、指導力のある教師にどんどん活用させる。指導力のある教師が活用してこそ校内に広がる。

I C T教育を進めて行くに当たって留意したこと

G I G Aスクール開始前は、否定的な意見が少なくなかった。

- ・I C T環境がなくても何ら困ることはない。
- ・I C Tを使う準備等に時間がかかって負担感が増す。
- ・機械のトラブルなどがあると授業が中断する。
- ・チョークと黒板でよい授業ができない者にI C Tを使わせても無駄。

それらの課題解決に向けて、学校訪問できめ細やかな指導や啓発、研修会の充実、産学官の連携、人的支援などを行ってきた。その際、教師の「腹落ち」に時間をかけた。

【主な質疑応答】

Q：企業とどのように連携しているのか。

A：企業側にもC S Rなどの考え方があり、学校と連携したいと思っていて、実証の場を求めている。企業にとって実証をできる場をつくったことで、お互いにwin-winの関係になったことが正解だったと思う。学校側が開かれていないと難しい。企業の宣伝が入るため、校長会は当初は否定的だったが、面白

いということが分かってきてからは、各学校から自分のところでやらせてほしいとなった。教育委員会としては、学校のやりたいようにやらせるようにしている。企業に開かれた教室にすることが大事だと思う。



Q：家庭学習のあり方についての考えは。

A：根性論ではない。ICT環境が導入され、家庭学習用コンテンツはあるが、使ってほしい子は使わないけれども、使える子はどんどん使って先に行ってしまう。自分自身のコントロールやモチベーションの形成は一朝一夕にできるものではなく、数多くこなしても無理矢理やらせても身につくものではない。楽しいものでないと、子どもが学びたいことでないと、家庭学習は定着しない。学校のカリキュラムマネジメントの計画に家庭学習を入れており、定期的にこの授業のこの単元で宿題を入れようというように、意図的計画的に行っている。

Q：不登校の児童生徒への対応については。

A：校内サポート教室「ぱれっとルーム」を市内12小学校中3校に設置して、効果があるかどうかを、専門家による「ぱれっとラボ」で検証している。不登校であった複数の子が教室に入れるようになったとの成果があった。そこで、来年4月からは12校全校に設置することになった。中学校にはさわやか相談室があるが、小学校のうちから取り組むべきである。この事業は効果があると思っているので期待している。

【まとめ】

戸ヶ崎教育長の熱意を感じた視察であった。国レベルの大きな視野で、誰一人取り残されない教育、自分で生きていく力を身につける教育を実践している。また、企業にとっては実験の場かも知れないが、その意図を上回るように児童生徒に対して先駆的な教育の提供を行っている。あらゆる面で、これからの教育を取り巻く環境の変化を見据えて教育改革に取り組まれていた。



狭山市において同様の取り組みをそのまま行うことは難しいかも知れないし、また、狭山市には地域との連携など、狭山市の風土にあった強みを活かした教育の実践が大切であるとも思われる。しかしながら、戸田市の教育のあり方は教育のありたい姿であり、大きな理想像として一歩でも近づけるようにすることがとても大切なことであるとも感じている。

以上が視察の概要であり、報告いたします。